

小児肘内障について

肘内障とは、手を強くひっぱられた後に、腕を動かさなくなったという症状のことをいいます。新生児から5歳くらいまでの小児、特に女兒に多いという特徴があります。

原因

多くは、両手を持って振り回したりとか、子どもが抵抗するのに強く手を引っ張ったといったエピソードのはっきりした場合に多く起こります。

症状

子どもは、手のひらをやや後ろ向きにして腕を垂らしており、痛がって腕を動かそうとしません。これは、輪状靭帯というゴムのような線維が、手をひっぱられた際、肘の関節の中に落ち込んだためです。

治療

一方の手で肘を後ろ側から持ち、反対の手で、手のひらが手前を向くようにゆっくり回しながら肘を曲げます。多くは、肘のところで、クチンという音がして、整復されます。

その後、手を動かすかどうか、おもちゃなどを持たせて肘の動きを観察して下さい。特に変わりがないようなら、そのままで結構です。

同様に手を引っ張るようなことがない限りは、癖になることはありません。

- 整復を何度か試みても手を動かさなかったり、依然として痛がっている場合には整形外科を受診して下さい。また、鉄棒などから落下して手をついた場合には、肘や鎖骨の骨折の場合がありますので、同様に整形外科を受診して下さい。